Mimaki

CJV200, CJV300 Plus, CJV330, UCJV300/150, UCJV330

ID カットガイド

この度は、インクジェットプリンタ (プリント & カットタイプ) をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この「ID カットガイド」では、対象のプリント＆カッターと添付のソフトウェアを使った ID カット方法と、事前に確認 / 設定していただきたい項目を説明します。

ID カット可能なプリント＆カッターは以下の通りです。

・CJV200, CJV300 Plus, CJV330, UCJV300/150, UCJV330

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写することは固くお断りいたします。
- 本書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 本書に記載している株式会社ミマキエンジニアリング製ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項が一部異なる場合があります。ご了承ください。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害 (逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない) に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してメディア 等の損失やメディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。
- 本書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

本文中の表記について

- メニューや画面に表示される項目やボタンは、[ファイル] のように [ ] で囲っています。
- RasterLink6Plus、RasterLink7 と RasterLink8 をまとめて RasterLink と称しています。

本書で使用している画面イメージについて

- RasterLink6Plus の画面イメージを例に説明しています。

マークについて

重 要！ ・注意していただきたいことや、必ず実行していただきたい内容を説明します。

・知っていると便利なことを説明します。

RasterLink は株式会社ミマキエンジニアリングの日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Adobe、Illustrator は、Adobe Inc. の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Microsoft, Windows は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Apple, Macintosh は、Apple Inc. の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
その他本書に記載されている会社名、および商品名は各社の日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

目 次

ご注意 1

ID カットとは 3

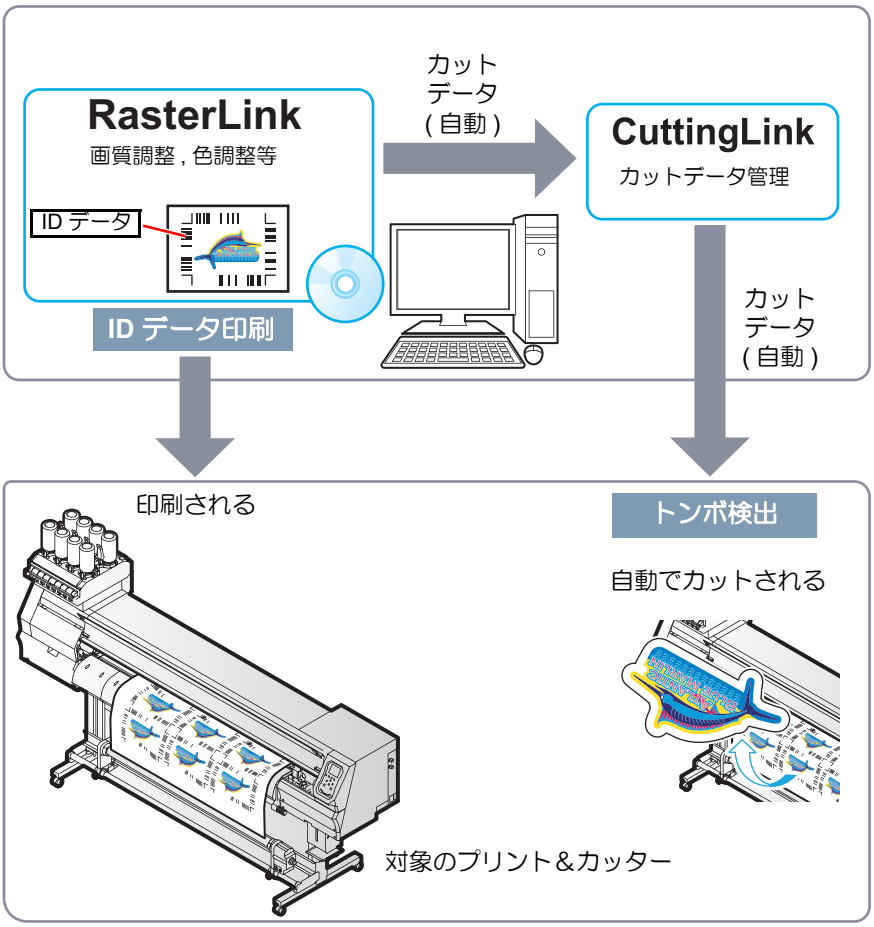
ID カットの手順 4
準備する 5
PC のセットアップを行う 5
印刷 , ID カットする 8
メディアをセットする 8
データを印刷する 9
ID カットする 11

こんなときは 12
トラブルシューティング 12
CuttingLink - Server を変更した 14
CuttingLink - Server のデータをバックアップしたい 14
CuttingLink - Server を移行したい 14
1. 移行前の CuttingLink - Server PC で初期設定をリセットする。 14
2. 移行先の CuttingLink - Server PC で Server の設定を行う。 14
3. RasterLink で CuttingLink - Server PC を再登録する。 14
CuttingLink - Client はどんな場合に使うの ? 15
CuttingLink - Client の設定方法 15
同じ場所を 2 回カットする 16
複数の種類のデータを ID カットしたい 17

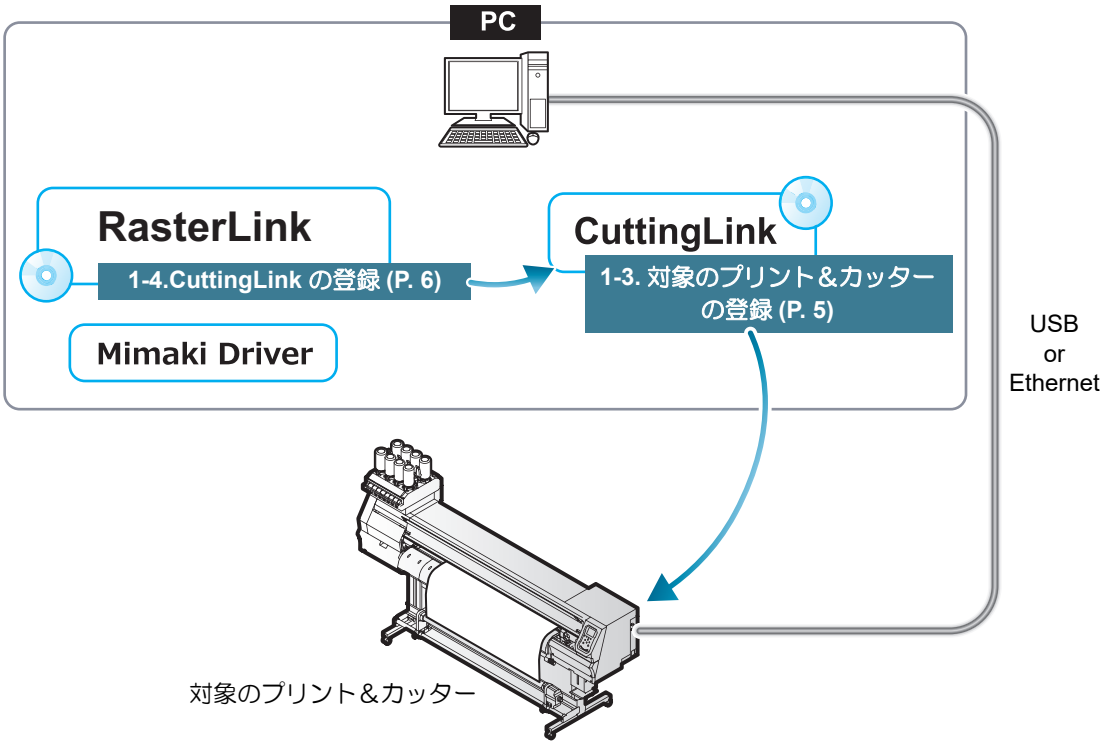
ID カットとは

ID を含むデータを検出するだけで、ID 情報通りに自動的にカットする機能です。データを印刷後、改めてカットデータを出力する必要がありません。(通常は印刷データとカットデータを別々に出力します。)

• ID カットフロー



• システム構成



ID カットの手順

1. PC のセットアップを行う (P.5)

1. PC と対象のプリント＆カッターを USB または Ethernet で接続する。(P.5)
2. ソフトウェア / ドライバをインストールする。(P.5)
3. CuttingLink で対象のプリント＆カッターを登録する。(P.5)
4. RasterLink で CuttingLink を登録する。(P.6)

2. メディアをセットする (P.8)

1. 対象のプリント＆カッターにメディアをセットする。(P.8)
2. メディアの余白が十分であるかを確認する。(P. 8)

3. データを印刷する (P.9)

1. RasterLink を起動する。(P.9)
2. サンプルデータを読み込む。(P.9)
3. トンボと ID データを付加する。(P.9)
4. [RIP ＆印刷] または [RIP 後印刷] を選択する。(P.10)
5. [開始] をクリックする。(P.10)
6. ID 付きデータが印刷される。(P.10)

4. ID カットする (P.11)

1. トンボを検出する。(P.11)
2. カットデータが自動で受信されカットされる。(P.11)

準備する

印刷や ID カットをする前に、対象のプリント＆カッター , ソフトウェア / ドライバの準備が必要になります。
既に準備が済んでいる場合は「印刷 , ID カットする」(P.8) に進んでください。

• ソフトウェア / ドライバー一覧
ID カットに必要なソフトウェアは以下のとおりです。ソフトウェアは全てミマキエンジニアリング製です。

ソフトウェア / ドライバー	説明
RasterLink6Plus*1 *2 Ver.2.3 以上 RasterLink7*1 Ver.2.3.0 以上 (UCJV150 シリーズを除く) RasterLink8 Ver.1.0.0 以上	画像データを受け、 多彩な編集を行い、 プリンターに作画データを送信するソフトウェアです。 • RaterLink6Plus: CD (プリンター同梱品) • RasterLink7: SW パッケージ用梱包箱 (プリンター同梱品) RasterLink7 のインストーラーは弊社ホームページ (https://japan.mimaki.com/download/software.html) よりダウンロードしてください。 • RasterLink8: インストーラーは弊社ホームページ (https://japan.mimaki.com/download/software.html) よりダウンロードまたは、MA2 よりインストールしてください。 インストール方法については **「RasterLink インストールガイド」 または 「Mimaki Application Assistant ユーザーズガイド」** を参照してください。
CuttingLink*1 Ver.1.1.6 以上	ID カットを管理するソフトウェアです。 弊社ホームページ (https://japan.mimaki.com/download/software.html) よりインストーラーをダウンロードしてインストールしてください。 インストール方法については **RasterLink インストールガイド「CuttingLink のインストール」** を参照してください。
Mimaki ドライバー	ミマキエンジニアリング製のインクジェットプリンタ / カッティングプロッタを使用するためのデバイスドライバーです。 • RaterLink6Plus をお使いの場合 : CD (プリンター同梱品) • RasterLink7 または RasterLink8 をお使いの場合 : 使用する機種に対応した Mimaki ドライバーをインストールしてください。Mimaki ドライバーは弊社公式ウェブサイト（https://japan.mimaki.com/）からダウンロードできます。対応機種は Mimaki ドライバーのダウンロードページで確認できます。

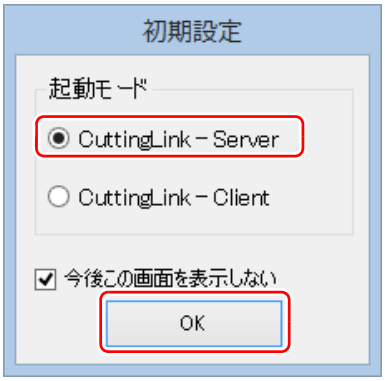
*1. 所定のバージョン未満のソフトウェアをお使いの場合は、ミマキホームページ (http://japan.mimaki.com/) よりバージョンアップ版インストーラーをダウンロードしてインストールしてください。
*2. CJV330 シリーズと UCJV330 シリーズ、CJV200 シリーズは RasterLink6Plus で使用できません。

PC のセットアップを行う

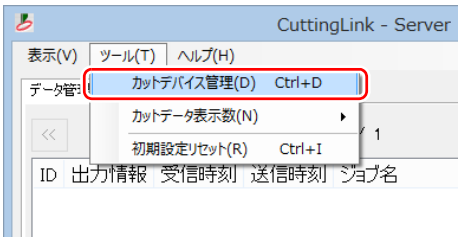
1. PC と対象のプリント＆カッターを USB または Ethernet で接続する。
2. ソフトウェア / ドライバをインストールする。
   (1) Mimaki ドライバをインストールする。
   (2) RasterLink をインストールする。
   (3) CuttingLink をインストールする。
3. CuttingLink で対象のプリント＆カッターを登録する。

(1) スタートメニューから CuttingLink を起動するか、またはデスクトップに作成されるCuttingLinkのアイコンをダブルクリックして CuttingLink を起動する。
- [初期設定] 画面が表示されます。

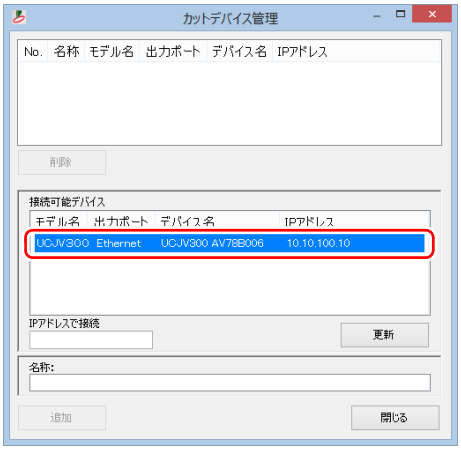
(2) [初期設定] 画面で [CuttingLink-Server] を選択して [OK] をクリックする。
- [データ管理画面] が表示されます。



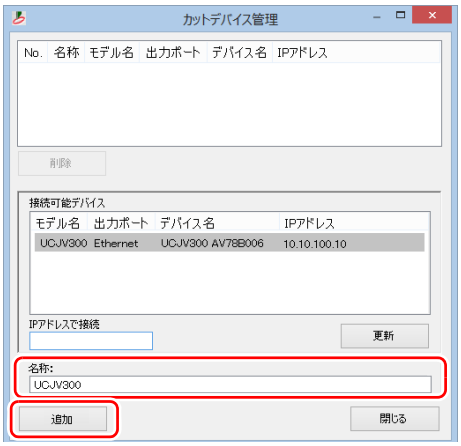
(3) [ツール] メニューの [カットデバイス管理] を選択する。



(4) [接続可能デバイス] で対象のプリント＆カッターを選択する。



(5) [名称] を入力し、[追加] をクリックする。
- 一覧に対象のプリント＆カッターが追加されます。



(6) [閉じる] をクリックする。

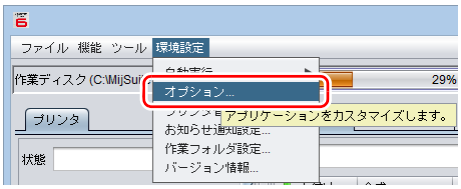
- CuttingLink は PC 起動時に自動で起動されます。

4. RasterLink で CuttingLink を登録する。

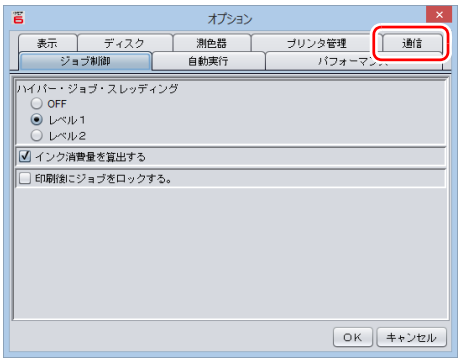
• 必ず、CuttingLink が起動されている状態で行ってください。

(1) RasterLink を起動する。

(2) RasterLink で [環境設定] メニューの [オプション] を選択する。

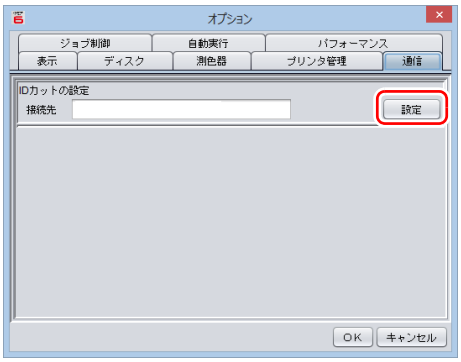


(3) [オプション] 画面の [通信] タブをクリックする。



(4) [ID カットの設定 : 接続先] の [設定] をクリックする。

• [接続先設定] 画面が表示されます。

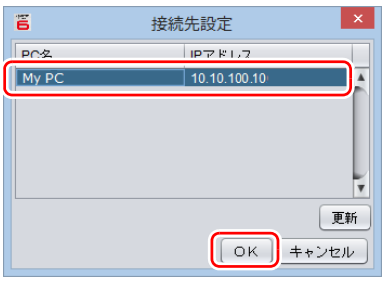


(5) [接続先設定] 画面で PC を選択して、[OK] をクリックする。

• PC が表示されていない場合は [更新] をクリックしてください。

• [接続先設定] 画面が閉じます。

• [オプション] 画面で [接続先] に "PC 名 (IP アドレス)" が表示されます。



(6) [オプション] 画面で [OK] をクリックする。

• CuttingLink と接続されます。

印刷 , ID カットする

ここでは、添付のマニュアル CD に入っているサンプルデータを使った ID カット方法の説明をします。
サンプルデータがない場合は、イラストとカット線を含むデータを作成してください。

重 要！ ・必ず、P.5「準備する」を確認してから、プリントおよびカットを行ってください。

メディアをセットする

詳しくは、対象のプリント＆カッターの取扱説明書を参照してください。

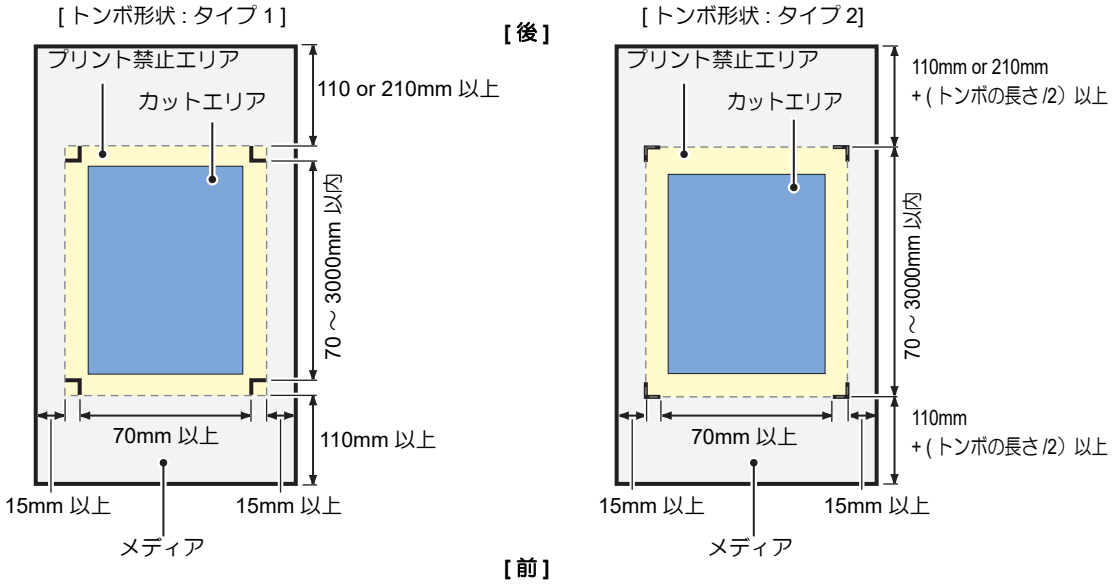
メディア余白が以下の数値になるようにメディアをセットしてください。メディアを 90°, 180°, 270° 回転してカットする場合は、回転した状態でのメディア余白が以下の数値になるようにしてください。
オートカット機能（複数の種類のトンボデータを自動で連続カットする機能）を実行する場合は、印刷したメディアをセットする向きを 0° または 180° にしてください。それ以外の角度でセットした場合はオートカットできません。

- 前端 :　110mm 以上
- 左右端 : 15mm 以上
- 後端 :　110mm 以上
  210mm 以上 (RasterLink でコピーしている場合)

1. 対象のプリント＆カッターにメディアをセットする。
2. 印刷開始位置 (原点) がメディア前端から 110 mm 以上、右端から 15mm 以上になっているかを確認する。
   - メディアの幅が [画像全体の幅 (トンボを含む)+ 右 15mm+ 左側 15mm] 以上あることを確認してください。
   - 前 / 左 / 右の余白が小さい場合、メディア端をトンボと間違えてトンボ検出処理を始めてしまうことがあります。

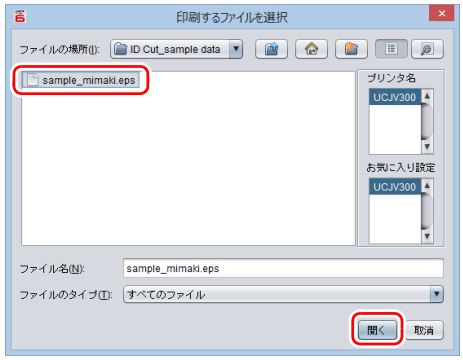
   (1) ローカルで状態でジョグキーを押し、メディア前端から 110mm 以上、右端から 15mm 以上になるように LED ポインターの光点を移動する。

   (2) [ENTER] キーを押す。
   - 印刷開始位置が変更されます。
3. 印刷終了位置が、メディア後端から 110 mm または 210 mm(RasterLink でコピーしている場合) 以上あるかを確認する。
   - メディアの長さが [全体画像の長さ (トンボ含む) + 110mm + 110mm or 210mm(RasterLink でコピーしている場合)] 以上あることを確認してください。

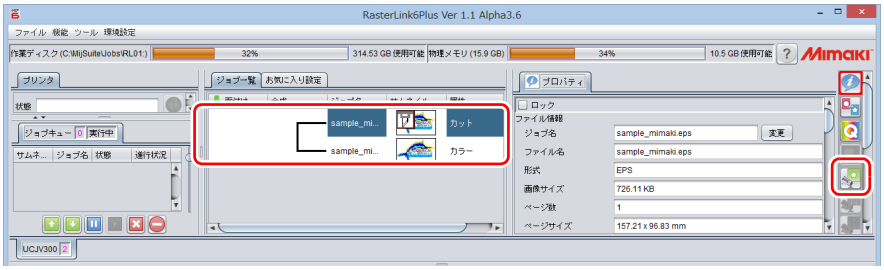


データを印刷する

1. RasterLink を起動する。
2. マニュアル CD を PC にセットする。
   - マニュアル CD がない場合は、 次の手順でサンプルデータを作成し手順 3 へ進んでください。
     (1) イラストとカット線を作成します。
     - 作成方法は RasterLink リファレンスガイド「RasterLinkTools」を参照してください。
     (2) イラストデータを印刷用レイヤー (プリント属性 ON) に、カット線データをカット用レイヤー (プリント属性 OFF) に配置します。
3. [ファイル] メニューの [開く] を選択する。
   - [印刷するファイルを選択] 画面が表示されます。
4. サンプルデータを読み込む。
   (1) [印刷するファイルを選択] 画面で以下のファイルを選択し、[開く] をクリックする。
   Windows の場合 : “CD ドライブ :\JP\Japanese\ID Cut_Sample data\sample_mimaki.eps”
   Macintosh の場合 : “CD ドライブ :\Mac_Japanese\ID Cut_Sample data\sample_mimaki.eps”
   マニュアル CD がない場合 : 手順 2 で作成したデータ
   (2) サンプルデータが読み込まれます。
   - サンプルデータは RasterLinkTools で作成されています。



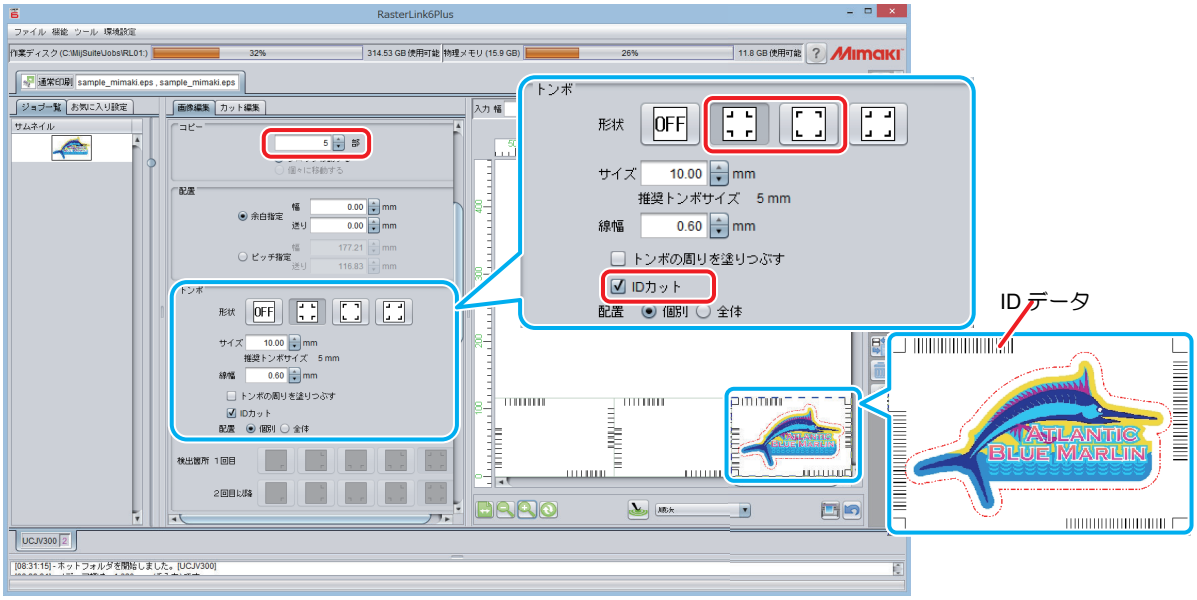
5. 読み込まれたデータを選択して、画面右の機能アイコン一覧で [通常印刷] アイコン をクリックする。



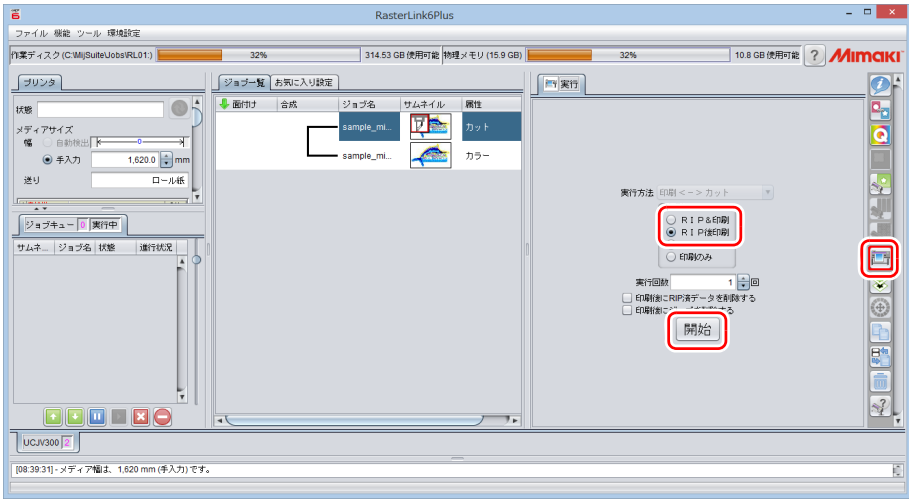
6. トンボと ID データを付加する。
   ID カット可能な条件は以下のとおりです。
   - トンボ形状 : [タイプ 1] または [タイプ 2]
   - データのサイズ : 縦横 70mm 以上
   (1) コピー数を設定する。
   (2) トンボ形状を選択する。

(3) [ID カット] にチェックを入れる。

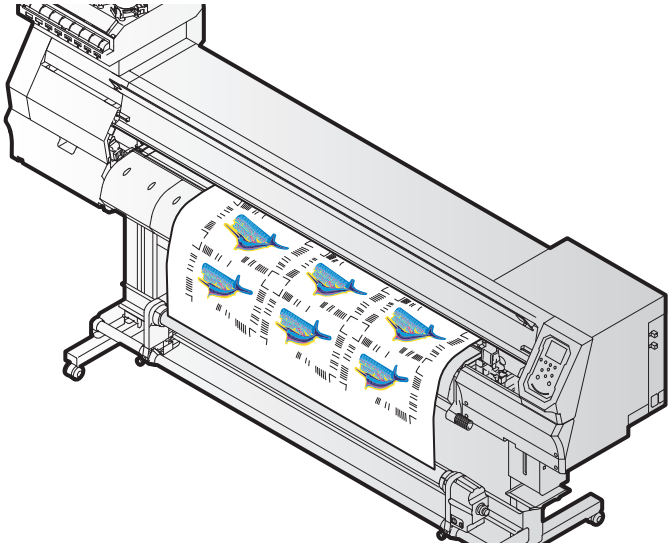
- データにトンボと ID データが付加される。



7. 画面右の機能アイコン一覧で [実行] アイコン をクリックする。
8. [RIP ＆印刷] または [RIP 後印刷] を選択する。
9. [開始] をクリックする。

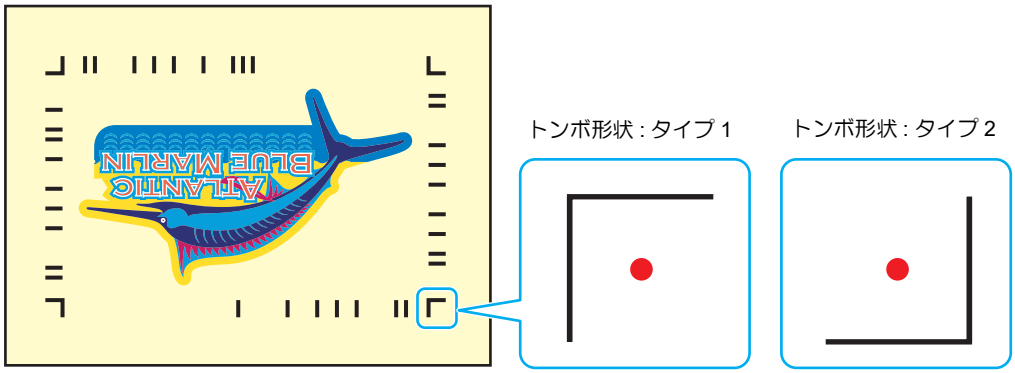


10. ID 付きデータが印刷される。



ID カットする

1. トンボを検出する。
   (1) ローカルで [SEL] キーを 2 回押す。
   (2) [▲][▼] キーを押して [トンボ原点検出] を選択し、[ENTER] キーを押す。
      • トンボ検出モードになります。
   (3) [▲][▼][◀][▶] キーを押して、LED ポインターの光点をトンボの中心に移動する。



   (4) [ENTER] キーを押す。
      • トンボ検出されます。
      • プリンタはリモートモードになります。
2. カットデータが自動で受信されカットされる。

こんなときは

トラブルシューティング

RasterLink で [ID カット] チェックボックスが無効になっている。

↓

ジョブのデータサイズは 70mm 以上ありますか？

→ いいえ → データサイズを 70mm 以上にしてください。

↓ はい

トンボ形状は [タイプ 1] または [タイプ 2] を選択していますか？

→ いいえ → トンボ形状の選択で、[タイプ 1] または [タイプ 2] を選択してください。

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

RasterLink のメッセージ表示欄に「ID カット用の ID が取得できませんでした。印刷を中断します。」エラーメッセージが表示されて印刷できない。

↓

CuttingLink - Server PC と Ethernet で接続していますか？
CuttingLink と RasterLink を同じ PC にインストールしている場合は、" はい " に進んでください。

→ いいえ → Ethernet で接続してください。
(☞P.6 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

↓ はい

CuttingLink が起動されていますか？

→ いいえ → CuttingLink を起動してください。

↓ はい

RasterLink で CuttingLink - Server PC を正しく登録していますか？
以下の内容を確認してください。
RasterLink[環境設定] メニュー - [オプション] - [通信] タブで、[ID カットの設定] - [接続先] に CuttingLink - Server 名が表示されていますか？

→ いいえ → CuttingLink - Server PC 名を登録しなおしてください。
(☞P.6 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

↓ はい

登録している CuttingLink - Server PC と接続していますか？
以下の手順で確認してください。
(1) RasterLink[環境設定] メニュー - [オプション] - [通信] タブで、"ID カットの設定 " - " 接続先 " の [設定] をクリックしてください。
(2) [接続先設定] 画面で [更新] をクリックしてください。
(3) 登録している CuttingLink - Server PC 名が表示されていますか？

→ いいえ → CuttingLink - Server PC 名を登録しなおしてください。
・CuttingLink - Server PC のアドレスが変更された場合は、 再登録が必要です。
(☞P.6 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

対象のプリント＆カッターでトンボ検出しても、ID カットされない。

↓

PC と対象のプリント＆カッターを USB または Ethernet で接続していますか？

いいえ → USB または Ethernet で接続してください。

↓ はい

CuttingLink - Server で対象のプリント＆カッターを正しく登録していますか？
CuttingLink - Server の [カットデバイス情報] タブで以下の内容を確認してください。
(1) [出力ポート]が物理的に接続しているものと同じですか ?(USB/Ethernet)
(2) [デバイス名] に表示されているシリアルNo.が対象のプリント＆カッター本体のシリアル No. と同じですか？

いいえ → CuttingLink で対象のプリント＆カッターを登録してください。（☞P.5 「CuttingLink で対象のプリント＆カッターを登録する。」）

↓ はい

対象のプリント＆カッターで ID カットの設定は正しいですか？
操作パネルで以下の内容を確認してください。
・[カッティング] - [トンボ検出] - [形状], [サイズ] が印刷トンボデータと同じになっていますか？

いいえ → 対象のプリント＆カッターの操作パネルで印刷トンボデータと同じトンボ形状とサイズを設定してください。

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

ID の異なるトンボを複数面付けしているが、連続カットしない。

↓

印刷したトンボの形状とサイズは全て同じですか？

いいえ → トンボの形状とサイズを全て同じにしてください。

↓ はい

対象のプリント＆カッターで [カッティング] - [トンボ検出] - [検出エリア] を正しく設定していますか？

いいえ → 対象のプリント＆カッターで [カッティング] - [トンボ検出] - [検出エリア] を正しく設定してください。（☞P.19 「対象のプリント＆カッターの操作パネルでトンボ検出エリアの設定を行う。」）

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

CuttingLink - Server を変更した

再度、RasterLink で CuttingLink の登録を行ってください。
(☞P.6 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

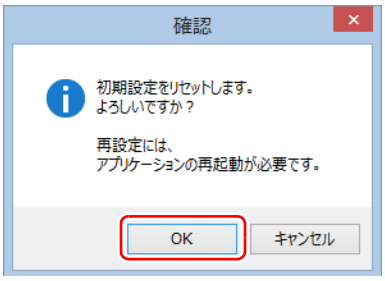
CuttingLink - Server のデータをバックアップしたい

以下のフォルダをバックアップしてください。
C:\MimakiTools\CuttingLink\DT

CuttingLink - Server を移行したい

1. 移行前の CuttingLink - Server PC で初期設定をリセットする。

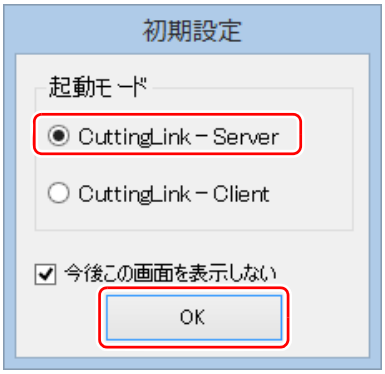
1. CuttingLink - Server のデータをバックアップする。
   (☞P.14 「CuttingLink - Server のデータをバックアップしたい」参照)
2. [ツール] メニューの [初期設定リセット] を選択して [OK] ボタンをクリックする。



3. CuttingLink を終了する。

2. 移行先の CuttingLink - Server PC で Server の設定を行う。

1. CuttingLink をインストールし、起動する。
   • インストール後 PC を再起動すると、 CuttingLink が自動で起動されるようになります。
2. [初期設定] 画面で [CuttingLink - Server] を選択して [OK] をクリックする。



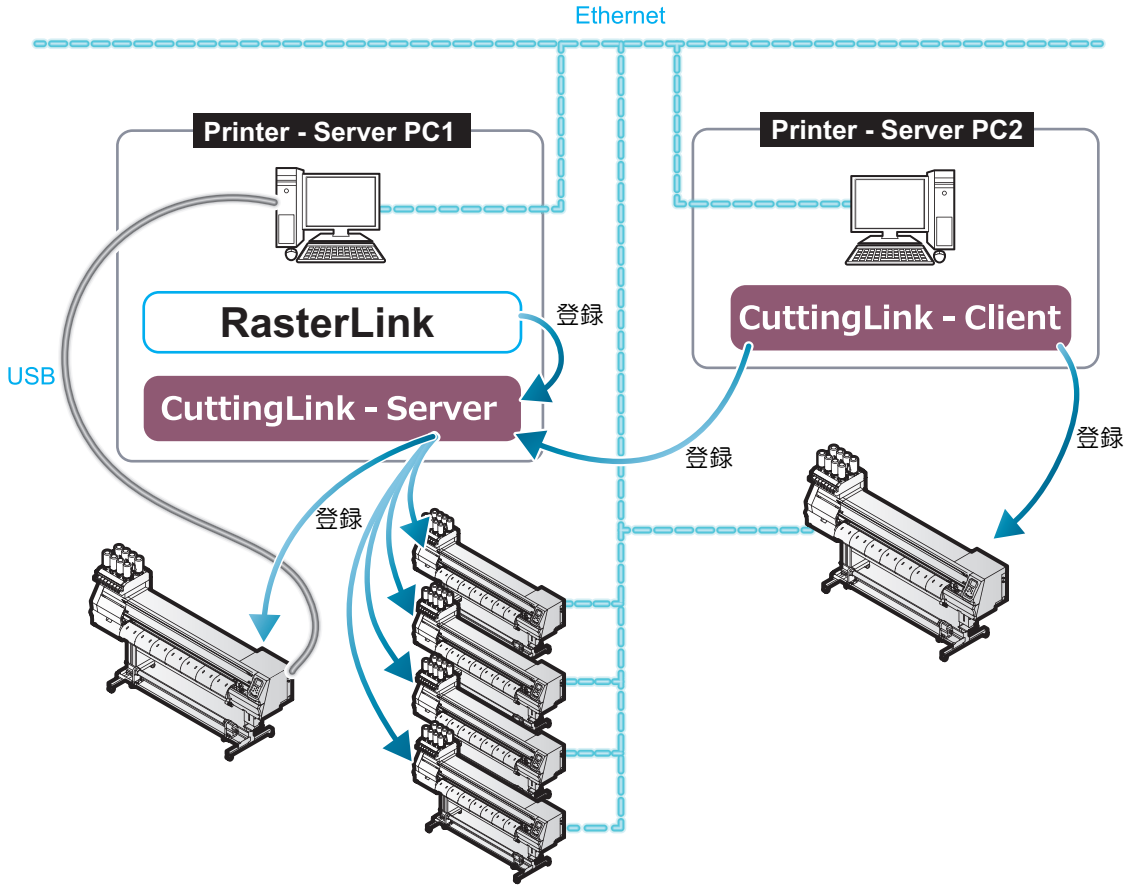
3. CuttingLink を終了する。
4. 移行前の PC でバックアップしておいたデータを以下のフォルダにコピーする。
   • C:\MimakiTools\CuttingLink\DT
5. CuttingLink を起動する。
6. 対象のプリント＆カッターを登録する。
   (☞P.5 「CuttingLink で対象のプリント＆カッターを登録する。」)

3. RasterLink で CuttingLink - Server PC を再登録する。

☞P.6 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」

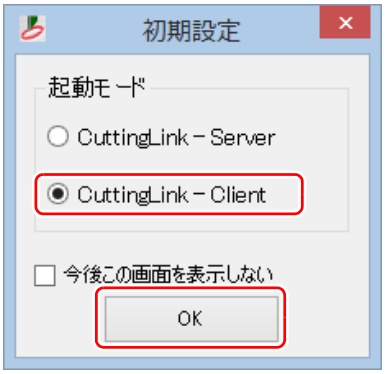
CuttingLink - Client はどんな場合に使うの？

CuttingLink - Server はプロッタを 5 台まで登録できます。下図のようにプロッタを 6 台以上接続する場合に Cutting - Client を使用します。



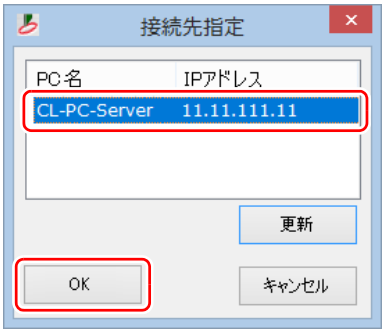
CuttingLink - Client の設定方法

1. 1 ～ 5 台目の対象のプリント＆カッターを接続している PC に CuttingLink をインストールし、CuttingLink - Server に設定する。(☞P.5 「CuttingLink をインストールする。」～)
2. 6 台目の対象のプリント＆カッターを接続している PC に CuttingLink をインストールし、CuttingLink - Client に設定する。
   (1) プロッタが接続されている PC に CuttingLink をインストールし、起動する。
   (2) [初期設定] 画面で [CuttingLink - Client] を選択し、[OK] をクリックする。



(3) [接続先指定] の一覧で、接続する CuttingLink - Server を選択し [OK] をクリックする。

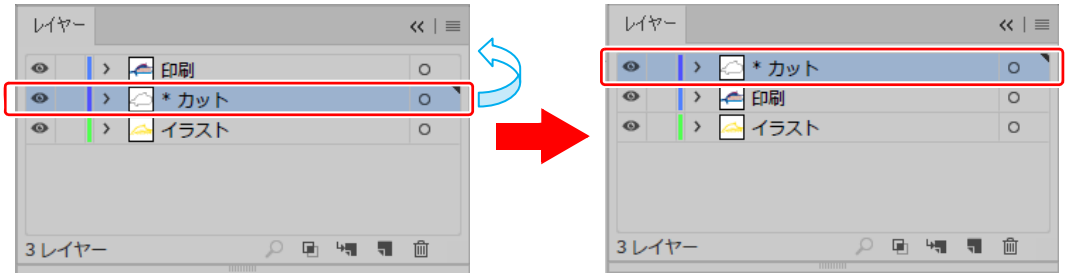
- 必ず、CuttingLink - Server PC で CuttingLink が起動されている状態で行ってください。
- [接続先指定] 画面が表示されない場合は、[ツール] メニューの [接続先指定] を選択してください。
- PC 名が表示されていない場合は [更新] をクリックしてください。



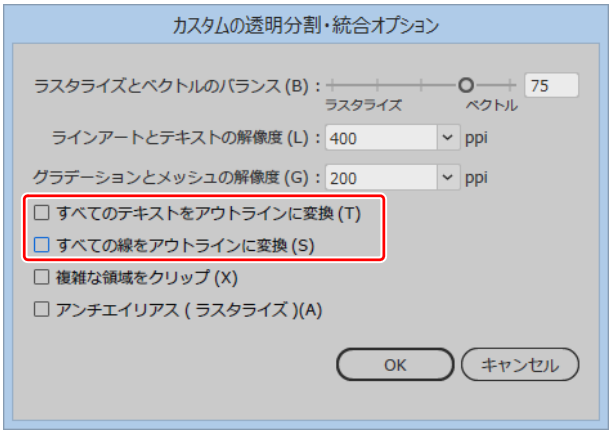
同じ場所を 2 回カットする

透明効果を適用した Adobe Illustrator 9 以降のデータは、RasterLink でプリント＆カットを実行すると、カットデータを 2 回カットする場合があります。
この場合、Adobe Illustrator で以下のように設定してください。

(1) プリントデータとカットデータを別レイヤーに分け、カットデータのレイヤーを一番上に移動する。

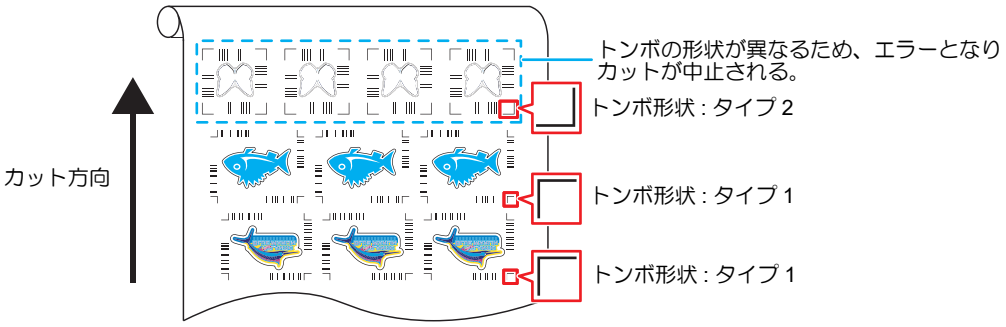


(2) [ファイル] メニューの [ドキュメント設定 ...] を選択する。
(3) [ドキュメント設定] ダイアログで、" プリセット " 右の [カスタム ...] をクリックする。
(4) [カスタムの透明分割・統合オプション] ダイアログで、[すべてのテキストをアウトラインに変換] および [すべての線をアウトラインに変換] を OFF に設定する。

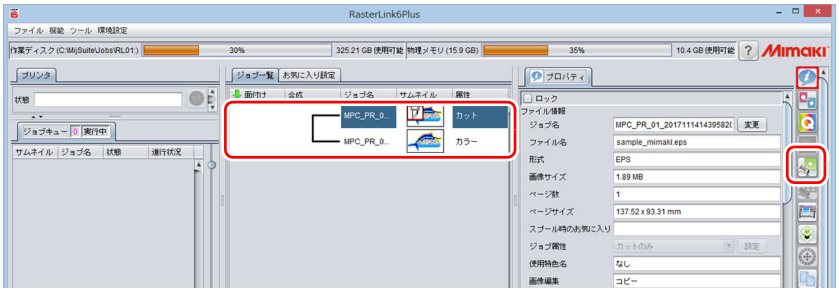


複数の種類のデータを ID カットしたい

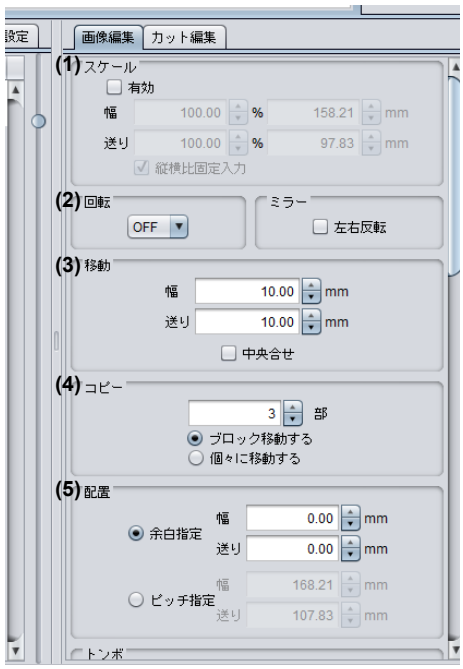
複数の種類のトンボデータを印刷して ID カットを行う場合、トンボの形状とサイズを全て同じにしてください。サイズまたは形状が異なるトンボがある場合は ID カットが中止されます。
また、印刷したメディアをセットする向きは 0° または 180° にしてください。0° または 180° 以外の向きにセットするとオートカット (複数の種類のトンボデータを自動で連続カットする機能）することができません。



1. RasterLink でプリント & カットデータを読み込む。
   データサイズは縦横 70mm 以上にしてください。
   プリント & カットデータの作成は、以下の方法で行います。
   • Adobe Illustrator でプリントデータとカットデータを作成し、 FineCut でトンボ作成 • 認識せずに ID カット出力する。 (データは RasterLink に自動送信されます。)
2. RasterLink で読み込まれたデータを選択して、画面右の機能アイコン一覧で [通常印刷] アイコン をクリックする。



3. 印刷条件の設定を行う。
   (1) [スケール] を設定する。(任意)
   • FineCut から送信した ID 付きデータについては、スケールの設定はできません。
   (2) [回転], [ミラー] を設定する。(任意)
   (3) [移動] の [幅], [送り] を設定する。(任意)
   • 10mm 以上の余白をとってメディアセットしている場合は設定不要です。
   そうでない場合は、[幅], [送り] に ”10mm” 以上の数値を入力してください。
   (4) [コピー] 数を入力する。
   (5) [配置] の [余白] または [ピッチ] を設定する。
   • トンボを付加すると ” 余白 ” は自動で以下の数値が設定されます。
   トンボ形状が [タイプ 1] の場合 : トンボサイズ
   トンボ形状が [タイプ 2] 場合 : 0mm



4. トンボと ID データを付加する。

(1) トンボ形状を選択する。

- [タイプ 1] または [タイプ 2]”

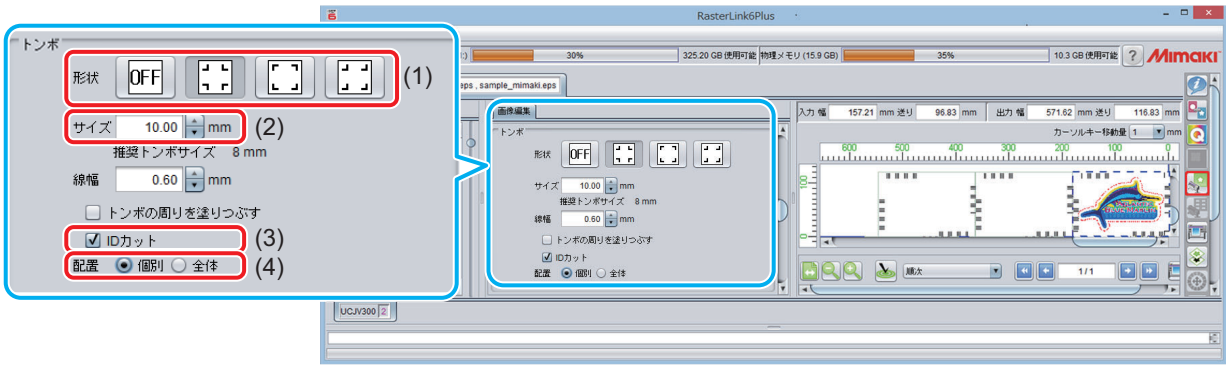
(2) トンボサイズを入力する。

(3) [ID カット] にチェックを入れる。

- データにトンボと ID データが付加される。
- FineCut から送信した ID 付きデータについては、[ID カット] チェックボックスに既にチェックが入っています。チェックを外すことはできません。

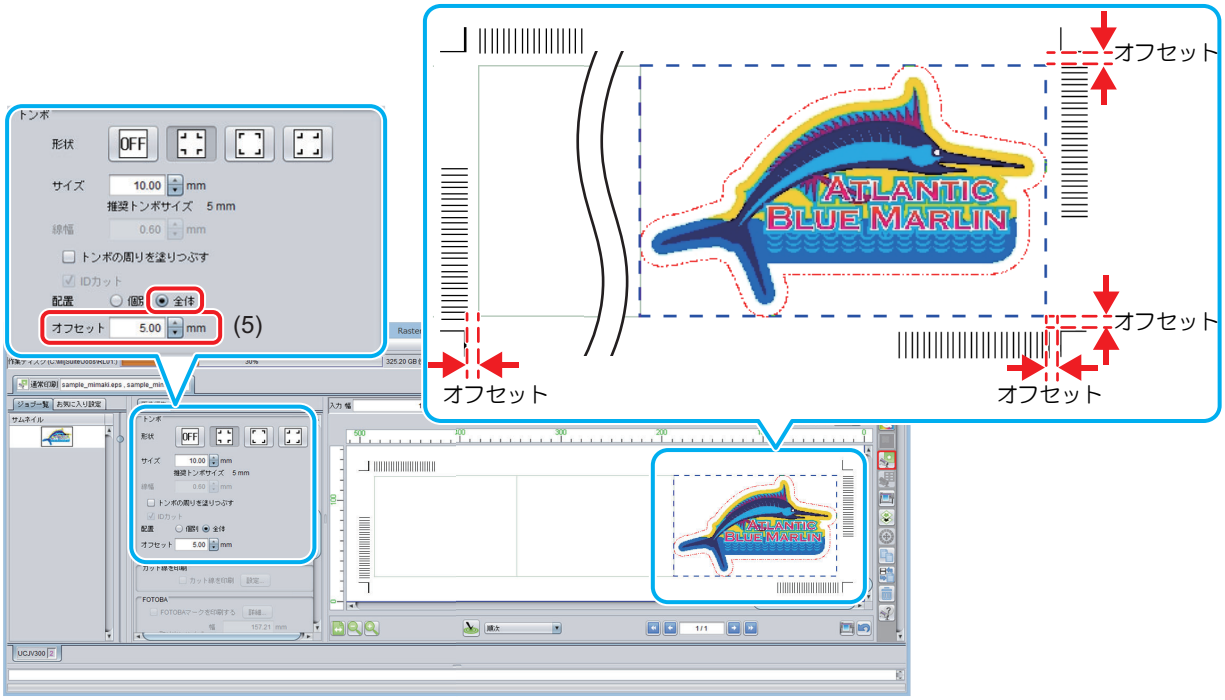
(4) トンボの [配置] を選択する。

- 個別 : データ 1 つごとにトンボと ID データが付加されます。
- 全体 : コピーした全てのデータを囲うようにトンボと ID データが付加されます。



(5) (4) で [全体] を選択した場合に [オフセット] を設定する。

- オフセット : データとトンボの余白



5. RasterLink でデータを出力する。(☞P.9「データを印刷する」)

- ID 付きデータが印刷されます。

6. 別のデータを作成し、手順 1 ～手順 5 を繰り返す。

7. 対象のプリント＆カッターに印刷済のメディアをセットする。

8. 対象のプリント＆カッターの操作パネルでトンボ検出エリアの設定を行う。

(1) ローカルで [MENU](FUNC1 キー) を押す。

(2) [▲][▼] キーを押して [カッティング] を選択し、[ENTER] キーを押す。

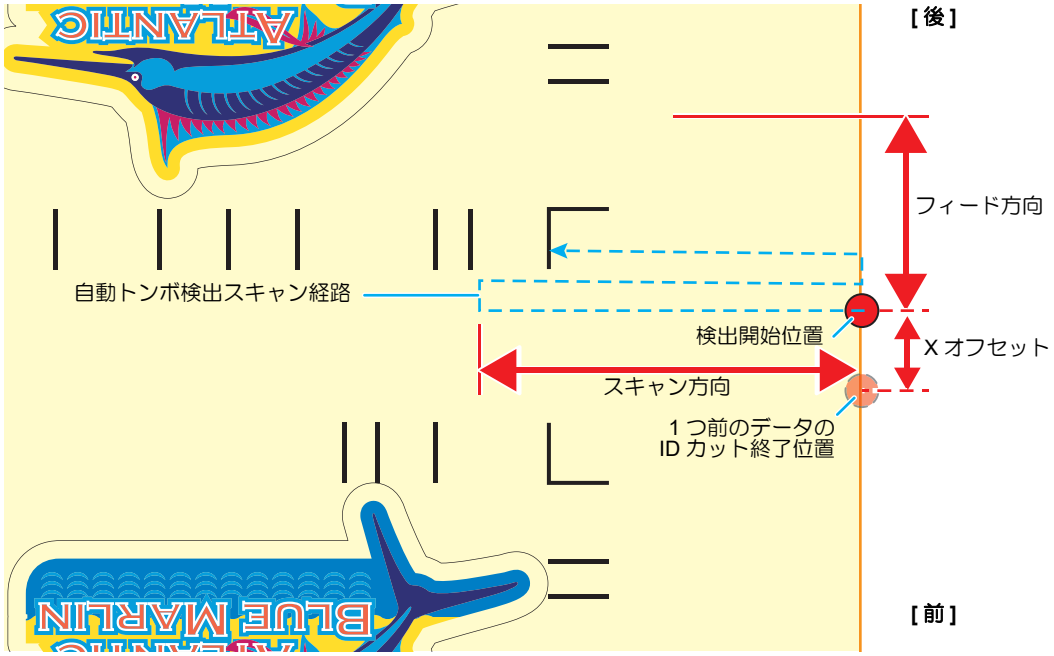
(3) [トンボ検出] を選択して [ENTER] キーを押す。

(4) [FUNC3] キーを押す。

(5) [▲][▼] キーを押して以下の項目を設定し、[ENTER] キーを押す。

項目		値	設定値
検出エリア		ー	トンボ検出動作について、 各種設定を行います。
	スキャン方向	DEFAULT, 0cm, 5cm ～装置幅	スキャン方向の検出幅を設定します。 設定している幅で往復スキャンしながらトンボを検出します。 • DEFAULT: メディア幅の半分の幅で検出動作を行います。 • 0cm: フィード (メディア送り) 方向のみの検出動作となります。 • 5cm ～装置幅 : 設定している幅での検出動作を行います。
	フィード方向	10 ～ 50cm	フィード (メディア送り) 方向の検出距離を設定します。
	X オフセット	0 ～ 100cm	ID カット後の検出開始位置を設定します。

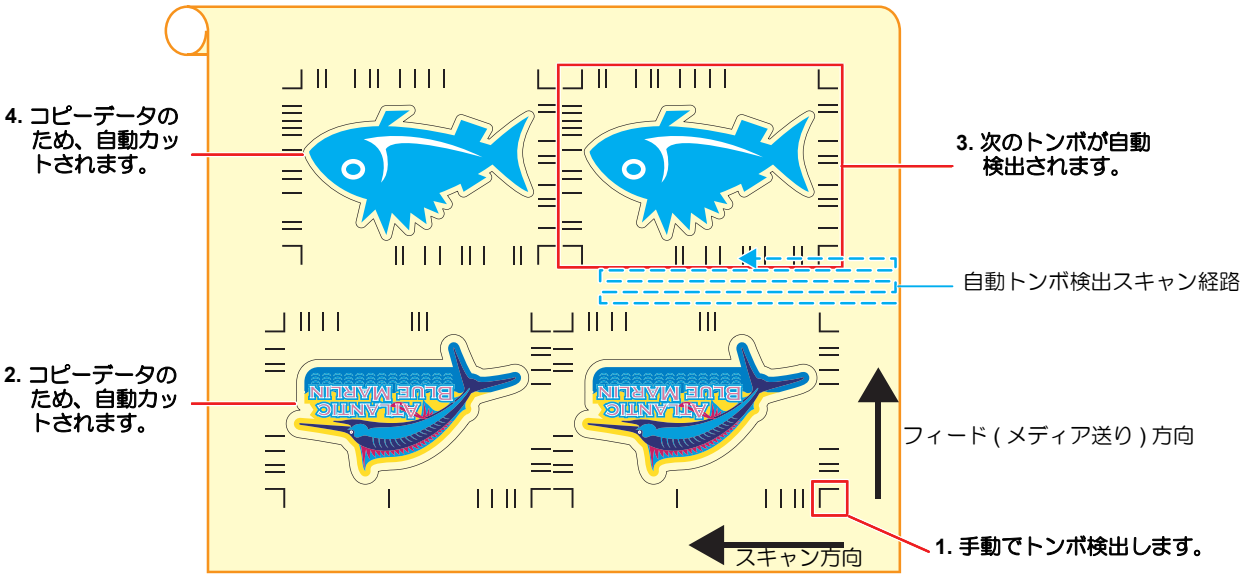
• [検出エリア] のスキャン方向、フィード方向、X オフセットは以下のとおりです。



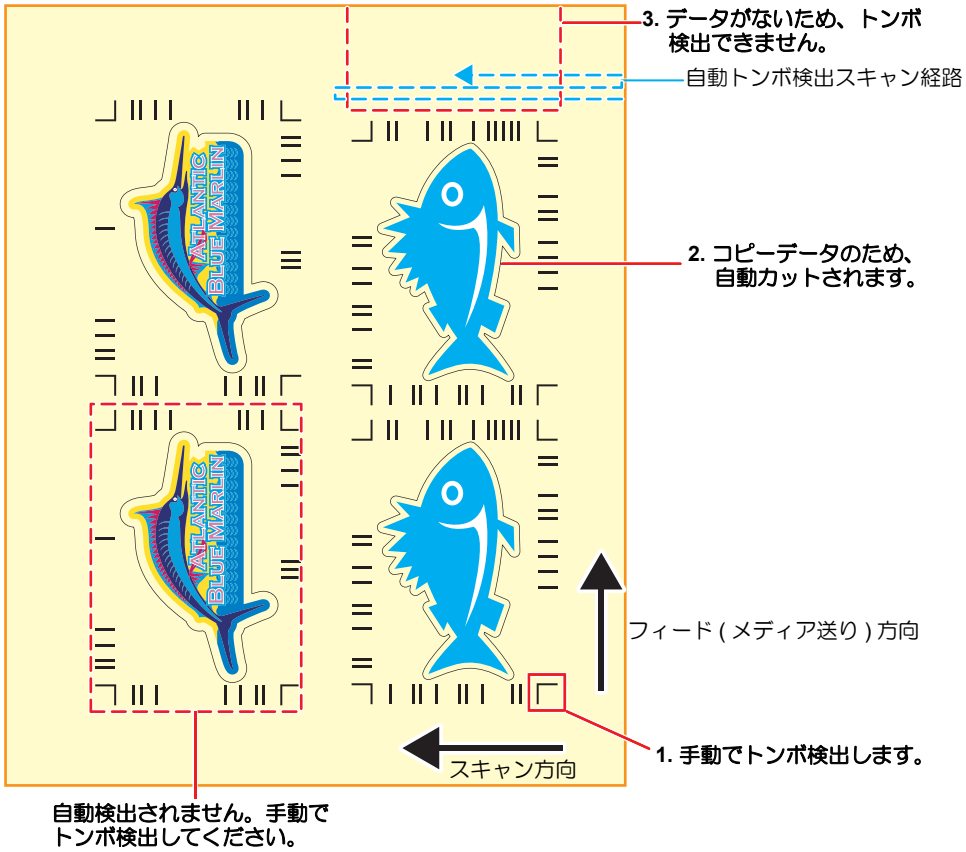
9. メディアをセットする。

トンボの自動検出方向はフィード (メディア送り) 方向です。
メディア余白が以下の数値になるようにしてください。

- 前端 : 110mm 以上
- 左右端 : 15mm 以上
- 後端 : 210mm 以上



- スキャン方向のトンボ自動検出はできません。スキャン方向にデータを配置した場合は手動でトンボ検出してください。オートカット（複数の種類のトンボデータを自動で連続カットする機能）したい場合は、印刷したメディアの向きを 0° または 180° にしてセットしてください。



10. トンボを検出すると自動で ID カットが開始される。(☞P.11 「ID カットする」)
    - ID カット後、 自動で次のトンボ検出が行われます。
11. データが終わるまで [自動トンボ検出→ ID カット] が繰り返される。

MEMO:

D203242-20-05102026
© 2017 MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. All rights reserved.